

光星逆転負け 準V



第72回春季

東北高校野球

最終日

第72回春季東北地区高校野球大会は最終日の14日、山形県中山町のヤマリョースタジアム

仙台育英に2-7

△山形(山形県野球場)で決勝を行い、本県第2代表の八戸学院光星は仙台育英(宮城第1代表)に2-7で敗れ、2年ぶりの優勝を逃した。八学光星は二回、北口の2点適時打で先制したが、その裏に逆転を許した。継投も実らず逆に突き放された。打撃では狙い球を絞り切れず、散発4安打に抑えられた。仙台育英は2017年以来、8年ぶり13回目の優勝。

(佐藤正悟、棟方好華)

▽決勝(ヤマリョースタジアム山形)

崩れた両右腕 被安打15

【仙台育英―八学光星】8回裏、八学光星は一死2塁から適時打を打たれ、二塁走者・砂(背番号14)が生還。2-6とされるヤマリョースタジアム山形

八学光星の北口、及川の2年生両右腕は15安打を浴び7失点。仙台育英の長打力と機動力ばかりが光る展開となった。先発の北口は二気持ちで負けてしまった。もったいないと肩を落とした。

初回を4人で切り抜けるまですの立ち上がりだったが、二回に崩れた。2死走者なしから、2打者連続で甘く入った直球を長打にされ、瞬く間に1失点。

「引きずってしまい、気持ち切り替えられなかった」。徐々に変化球頼みとなった配球も読まれさらに3連打された。この合計3失点で一気に逆転を許してしまった。

救援登板した及川は六回

1死満塁のピンチを1失点に抑える粘りを見せ七回も塞封したが、八回に突き放される。1点を失い、なおも2死三塁の場面。冬場に磨いた直球を相手の3番打者へ投じたが、中越えの適時二塁打にされた。「自信のある球だったが相手が一枚上手だった」。

夏の県大会開幕まで1カ月ない。けがから復帰し今大会2回登板した北口は「夏に向けていい経験になった」と振り返り「体力をつけ、走者を出した時の制球力に磨きをかけていきたい」と意気込んだ。及川は「甲子園に行くためにはチームの勝利に貢献できる投手にならないといけない」と決意を口にした。(棟方好華)



2回裏、2死二塁のピンチを迎え、北口の元に駆け寄り声を掛ける捕手米澤

中盤以降は防戦一方

【評】2年ぶりの頂点 者なしから5長短打を浴 六回から救援した及川は を狙った八学光星だった びて3点を献上。三回に この回、1死満塁のピン チを1失点で切り抜けた

八学光星・仲井崇基監督 全国上 位に入るような力のあるチームの打 線を見せつけられた。中盤以降は手 も足も出ず、防戦一方で粘ることが できなかった。攻撃力はもちろん 苦しい試合展開でも守り抜く守備力 も身に付けなければならぬ。北口 と及川はまだまだ成長段階の投手 で、どこまで伸びてくれるのか楽し み。この経験を夏に生かしてほしい。



試合後、相手の校歌を聴きながら無念の表情を浮かべる八学光星の選手たち

たくさん課題出た

仙台青英・須江航監督 決勝は、 お互いに過密日程の中での4試合 目。フルメンバークラッシュで戦った。 準々決勝で青森山田とも戦った。 ためて青森県は激戦区だと思っ

が、八回に味方の失策な 踏ん張れなかった。 どの得点圏に進めた走者 打線は二回に北口の2 をかえされ2点を失っ 点適時打で先制したもの 2投手で被安打15と の、三回以降登板した相 安打に抑え込まれた。

強打封じられ11三振

準々決勝と準決勝で2 桁安打をマークした八学 光星打線だったが、この 日は単打4本にとどま り、11三振。主将山上は 「狙い球を捉え切れなかつ た。（仙台青英と）打 力の大きな差を感じた」と 脱帽した。 三々五回、相手右腕の 切れのあるスライダーに 次々とバットが空を切 り、7者連続三振を喫し た。「チームとしてカウ

ントを取りにくるスライ ダーを狙ったが、捉えら れなかった」 一方で、長打4本を含 む15安打を放った相手打 線については「チャンス になったら一段と集中力 が上がった。何とか塁に出 ようという思いが強く、 簡単に三振しなかった。 力の差を痛感した。 ただ仲井監督、ナイン は「チームにまとまりが 出てきた」と口をそろえ

「と前を向いた。4番 に状態を上げて、夏は青 久保も強い相手と戦い、 森山田を倒して青森県1 位を目指す」と、落胆の

表情はなかった。（佐藤正悟